

【道端の自然】

「おつきみ」

今年はスーパームーンなど、何かと月の話題が多い年でした。9月27日の中秋の名月、10月25日の十三夜の月、どちらも大きくて明るく輝いていましたね。

十五夜が中国由来の行事なのに対し、十三夜は日本で生まれた行事なのだそうです。まん丸い月も美しいけれど、まだすっかり均整がとれていない微妙な美しさを持つ十三夜の月は確かに日本人の好みのような気がします。

お月見を楽しみながら、町田の昔話を伺いました。まだそのかたが子どもだったころ、お月見の晩、家々は縁側にお供えを出しておきます。すると、子どもたちが誘いあってやってきて供えられたお団子やらお芋、栗などをもらって行って良かったそうです。今のようなおやつもない頃です、さぞかし楽しいイベントだったことでしょう。それが、ある年、小学校の校長先生が「ものを黙ってものをもらってくるのはいけな

い」と諭され、子どもも大人もしゅんとしてしまった。

それ以来、その付近ではお月見の習慣が無くなってしまったそうです。そして戦争が始まり、お月見どころではなくなったとか。

近年はハロウィーンでお菓子をもらう子どもたちです。商業主義に踊らされているような気もしますが、でも子どもにとっては楽しい行事でしょう。

戦争などによって子どもの夢が奪われないように … 戦後70年を迎えて特に思うこのごろです。 (小川)

